

ヴィオラ 豊嶋泰嗣

Viola  
Yasushi  
Toyoshima

©大窪道治

桐朋学園女子高等学校、桐朋学園で江藤俊哉、アンジェラの両氏に師事。在学中よりヴァイオリン、ヴィオラ奏者として演奏活動始める。1986年、大学卒業と同時に新日本フィルのコンサートマスターに就任。97年からは九州交響楽団と新日本フィル、両楽団のコンサートマスターを兼任。現在、新日本フィルのソロ・コンサートマスター、九州交響楽団の桂冠コンサートマスター、兵庫県立芸術文化センター管弦楽団のコンサートをつとめている。またサイトウ・キネン・オーケストラや水戸室内管弦楽団でもコンサートマスターを務めている。近年ではホルンゴルト、三善晃、バルトークなど、近現代の協奏曲のソリストとしてもオーケストラの定期演奏会に出演。室内楽奏者としてアイザック・スターン、ヨーヨー・マ、マルタ・アルゲリッチ、ミッシェル・マイスターらと共演。またアルティ弦楽四重奏団のメンバーとしても活躍している。2016年よりチェンバー・ソロイスト・佐世保の音楽監督を務めている。1991年村松賞、第1回出光音楽賞、1992年芸術選奨文部大臣新人賞受賞。平成25年度兵庫県文化賞受賞。京都市立芸術大学教授、桐朋学園大学および大学院講師。

1719年製アントニオ・ストラディバリウスを使用。

Yasushi Toyoshima studied under Toshiya Eto and Angela Eto at the Toho Gakuen School of Music. In 1986 he graduated was appointed concertmaster for the New Japan Philharmonic. Currently he is concertmaster for the New Japan and Hyogo Performing Arts Center Orchestra. Also he is concertmaster Laureate for the Kyushu Symphony Orchestra. He also served as the concertmaster for the Saito Kinen Orcehstra, and Mito Chamber Orchestra. As a chamber performer, he worked with some of the world's top artists including Isaac Stern, Yo-Yo Ma, Martha Argerich, and Mischa Maisky. Also He is member of Arti String Quartet. He plays a 1719 Antonio Stradivarius.

## 10.11 金 第378回 定期演奏会

中村滋延(作曲家、九州大学名誉教授、相愛大学客員教授)

ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)

歌劇「シチリア島の夕べの祈り」序曲

|    |                                                                                             |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 作曲 | 1854年                                                                                       |
| 初演 | 1855年6月13日、パリ・オペラ座                                                                          |
| 編成 | フルート、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、コルネット2、トランペット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、バスドラム、スネアドラム、シンバル、弦5部 |

「リゴレット」(1851)、「トロヴァトーレ」(1852)「トラヴィアータ(椿姫)」(1853)の3作品はヴェルディの中期オペラの代表作。現在でも世界中のオペラ劇場で頻繁に上演されている。ところがこれらに続いて書かれた「シチリア島の夕べの祈り」は初演直後こそロングランの評判をとったが、今日では序曲を除いてさほど頻繁に上演されているわけではない。悲恋をモチーフにした人間ドラマとして聴衆が感情移入できる中期三大オペラに比して、史実をモチーフにしたスペクタクルなオペラであるせいかも知れない。

舞台はフランス占領下のシチリアの中心都市パレルモ。前シチリア王の妹エレナに思いを寄せるシチリア青年アルリーゴはフランス人総督モンフォンテを討ち、エレナを救い出し、シチリアをイタリア人の手に取り戻そうと反乱を企てる。ところがアルリーゴがモンフォンテの実子であることが判明する。モンフォンテはアルリーゴに反乱を鎮めてくれればエレナとの結婚を許すと持ちかける。ところがそれを待たずに「夕べの祈りを知らせる鐘」を合図にしてシチリアの人たちが蜂起し、フランス人たちは皆命を落とす。

序曲はオペラの内容を反映して劇的な表情に満ちたもの。序奏においてまず低音域の弦楽器が打楽器とのリズムのかけ合いで不安な情勢を描写する。その上にセレナーデ風の旋律が顔を出す、不安は増大し、闘いを象徴する激しい第1主題(ホ短調)に突入する。ソナタ形式の第2主題はチェロによるなだらかな旋律線の叙情的な音楽ではじまり、後半は和音の刻みの上の八分音符のスタッカートによる活発な音楽となる。やがて激しい戦いの描写の中で音

楽が展開される。再現部では第1主題は省略され、第2主題はより激しい表情となって再現され、そのまま劇的なコーダに突入する。

じつに聴き応え満点の序曲である。中期三大オペラに序曲を書かなかったヴェルディにすれば久しぶりの序曲で、気合いが入っていたのであろう。

## フレデリック・ショパン (1810-1849)

### ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11

|    |                                                                |
|----|----------------------------------------------------------------|
| 作曲 | 1830年                                                          |
| 初演 | 1830年10月11日、ワルシャワ                                              |
| 編成 | 独奏ピアノ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン、ティンパニ、弦5部 |

ピアノの詩人として音楽史にその名前が燦然と輝くフレデリック・ショパン。作曲家であるとともにピアノのヴィルトゥオーソ。ピアニストとして母国ポーランドの外で活躍するためには自作の協奏的作品が必要と考えていた。そこで彼はワルシャワを去る前にそれらを集中して作曲。このピアノ協奏曲第1番ホ短調はショパン20歳の時の作品であり、ポーランドでの最後の演奏会で初演した。実はこの曲の1年前にピアノ協奏曲へ短調が作曲初演されているが、その作品番号は出版順に従って第2番となっている。

**第1楽章**はAllegro maestoso(速く、威厳をもって)、4分の3拍子、ホ短調。古典的協奏曲のソナタ形式の常として、最初の提示部は管弦楽のみで、その後ピアノ独奏を中心とした第2提示部がある。第1主題はリズムに特徴ある堂々とした感じの前半部と、甘く切ないセンチメンタルな旋律による後半部から成る。前半部のモチーフはこの楽章の様々な箇所において、主に低音部に、顔を出す。

**第2楽章** Romanze Larghetto(ロマンス、ややおそく)、4分の4拍子、ホ長調。形式は明確ではないが、主題の登場の仕方を考慮すると変形ロンド形式とみなすことができる。弦楽器のみの序奏の後にA主題が現れる。ロ長調のB主題ではノクターン風な伴奏に支えられて装飾音を伴う旋律を美しく奏でる。この美しさはまさに

ショパンの独壇場。なおB主題の背景にはファゴットが美しく副旋律を奏でる。Aの再現の後、弦楽器の暗い感じの伴奏音型を伴ってピアノが嬰ハ短調のC主題を奏でる。

**第3楽章** Rondo Vivace(ロンド、快活に)、4分の2拍子、ホ長調。序奏が弦楽器の力強いユニゾンで重々しく開始される。その後に登場する主題はクラコヴィアクと呼ばれるポーランドの民族舞踊をモデルにした軽快なもの。この主題は管弦楽では力強く、ピアノでは華やかな装いで出現する。副主題はイ長調のリズミカルなものだが、ピアノのオクターブユニゾンが明るさと柔らかさを強調する。ロンドと書かれているが、楽想が次々と登場し自由に展開されていてロンド形式として捉えるのは難しく、またその必要もないかも知れない。

## エクトル・ベルリオーズ (1803-1869)

### 交響曲「イタリアのハロルド」 作品16

|    |                                                                                                                           |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 作曲 | 1834年                                                                                                                     |
| 初演 | 1834年12月23日、パリ音楽院ホール、ヴィオラ独奏クレティアン・ユラン、指揮ナルシス・ジラール                                                                         |
| 編成 | 独奏ヴィオラ、フルート2(ピッコロ持替)、オーボエ2(イングリッシュホルン持替)、クラリネット2、ファゴット4、ホルン4、トランペット2、コルネット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、タンバリン、シンバル、トライアングル、ハープ、弦5部 |

ベルリオーズは生涯に4曲の交響曲をつくっている。いずれもドイツで確立された「絶対音楽」としての交響曲の伝統から離れた「標題交響曲」である。この曲もそうであり、イギリスの詩人バイロンの長編詩「チャイルド・ハロルド」に基づく。バイロンの原作はいわば旅行記であり、多情多感なハロルドの旅先で胸に去来する想いを綴ったもの。ところがベルリオーズは自らをハロルドに見立て、自身のイタリア体験も加えて新たな物語を構想し、作曲したのである。

作曲の契機は前作「幻想交響曲」に感激したヴァイオリンの名手パガニーニからヴィオラ協奏曲の依頼を受けたことによる。しかし自我の強い夢想的な性格のベルリオーズが独奏楽器の名人芸を聞かせるためだけに協奏曲を作れるはずがなく、結局はヴィオラを主人に見立てて自分の思いの発露を最優先に交響曲を作曲したのである。

### 第1楽章「山におけるハロルド、憂愁、幸福、歓喜の場面」

序奏ではうごめく低音弦で苦悩を表す。ハロルドを象徴する固定楽想の短調への変奏形も憂愁の中に顔を出す。やがてヴィオラ独奏がハープの伴奏を伴っておおらかな感じで固定楽想(譜例1)の原形を演奏する。主部は八分の6拍子の速いテンポの音楽。ハロルドの多感な性格を象徴するかのように音楽的表情は刻々と変化する。



(譜例1)ハロルドの固定楽想

### 第2楽章「夕べの祈禱を歌う巡礼の行進」

前の楽章からは一転して平静な音楽。聖歌が弦楽合奏で歌われ、巡礼の歩みが管楽器で表される。独奏ヴィオラはきわめて控えめにしか出てこない。後半は静かなヴィオラのアルペジオの連続が続く。

### 第3楽章「アブルッチの山人が、その愛人に寄せるセレナード」

通常の交響曲のメヌエットもしくはスケルツォ楽章に相当する。はじめにアブルッチの山中からローマを訪れる牧人たちの吹奏するやや軽快な音楽が現れる。それはそのままイングリッシュ・ホルンによる牧人のセレナードに接続する。そこに音価を2倍にした固定楽想が重なり、牧人のセレナードに想いを寄せているハロルドがいることが分かる。

### 第4楽章「山賊の饗宴、前景の追憶」

冒頭から短調の激烈な第1主題による音楽が何度も出現する。出現するたびにこれまでに登場した主題が挿入される。一種の回想効果の演出である。やがて変ロ長調の派手な身振りの第2主題が現れる。これら二つの主題が混じりあって「山賊の饗宴」は展開され、手に汗を握るような緊張感をもって音楽はまさに「音の饗宴」として盛り上がる。

※楽器編成は資料を元に記載しておりますが、演奏の都合上、異なる場合がございます。悪しからずご了承ください。

### ストレスケアユニット クローバー

全室個室(バス・トイレ付)の入院施設です  
ゆとりあるフロアをご用意しました

本間病院

検索



癒しとおもてなしの

睡眠・ストレス・認知症に関する相談

(財)日本医療機能評価機構認定病院

精神科・心療内科・内科  
循環器内科・リウマチ科  
放射線科・リハビリテーション科

医療法人 寿栄会  
**本間病院**  
☎ 73-0111  
(0942)

福岡県小郡市三沢526番地



株式会社 弦楽器工房まつもと

販売／修理／調整／毛替え ヴァイオリン チェロ ヴィオラ コントラバス

OPEN 10:00-18:00 定休日／日曜日・第2第4土曜日・祝日

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴3-3-17 (301) Tel:092-406-4092 <http://studio-matsumoto.com> Mail:contact@studio-matsumoto.com